

<校訓>

高志共生

大庄中通信

大庄中学校
H25年度第26号
(H26.3.25・火)

来年度に期待をこめて 大庄中2年の学力を分析

2月の下旬に、2年生の学力到達度調査(実力テスト)があり、3月の始めに結果が返ってきましたので、先日、個人票を渡しました。今年は、来年度からの高等学校の新通学区域での公立高校入試に備えて、市内19校統一問題での調査でした。昨年度の2年生の調査結果との比較もしながら、大庄中2年生の学力の現状を分析してみました。

5教科とも市内平均を下回るが努力次第で…

右の表1は、今年の調査での教科別と5教科合計の大庄中平均と市内平均を比較したものです。どの教科も、7～15点ほど市内平均を下回っています。

表2は、卒業した3年生の2年生時の到達度調査の大庄中平均と市内平均を比較したものです。2年生の2月の時点では、5教科合計で市内平均を21点ほど下回っていましたが(各教科では1～10点下回っています)、3年生になってから11月の学力調査で、市内平均とほぼ同じ点数の学校平均になりました。たくさんの生徒の努力の結果だと思います。今年の2年生の市内平均との開きは、昨年度より大きいのですが、がんばって追いついてほしいと思っています。

点数が取れない原因は？

この大きな差の原因は、どこにあるのでしょうか？先生方の教え方がダメなのか、生徒達の授業や家庭学習への取り組み方がダメなのか、その両方なのか…？

	国語	数学	社会	理科	英語
大庄中	20.5	28.8	14.2	23.7	22.2
市内	8.7	19.6	14.9	19.1	25.2

この大きな差の原因は、どこにあるのでしょうか？先生方の教え方がダメなのか、生徒達の授業や家庭学習への取り組み方がダメなのか、その両方なのか…？

表3は、7月に実施した尼崎市「学習意識等に関するアンケート」の『学校の授業はどの程度わかりますか』という質問で、「わからないことが多い」と「ほとんどわからない」と答えた2年生のパーセンテージを大庄中と市内平均で比較したものです。回答は、『よくわかる・だいたいわかる・半分くらいわかる・わからないことが多い・ほとんどわからない』の5つから選ぶことになっています。大庄中の国語は、「わからないことが多い」と「ほとんどわからない」と答えた人の比率が市内平均より高いのに、到達度調査で53点くらいの平均点が取れていることを考えますと、基礎的な読み書きや文章を理解する能力は、ある程度備

[表1] 今年の2年生

	大庄中	市内	差
国語	52.6	61.2	-8.6
社会	34.0	41.2	-7.2
数学	30.3	41.5	-11.2
理科	39.1	47.5	-8.4
英語	36.0	50.7	-14.7
5科計	192.0	242.1	-50.1

[表2] 昨年度の2年生

	大庄中	市内	差
国語	59.8	60.8	-1.0
社会	42.7	43.7	-1.0
数学	41.0	50.8	-9.8
理科	43.7	51.1	-7.4
英語	50.5	52.1	-1.6
5科計	237.7	258.5	-20.8

表3は、7月に実施した尼崎市「学習意識等に関するアンケート」の『学校の授業はどの程度わかりますか』という質問で、「わからないことが多い」と「ほとんどわからない」と答えた2年生のパーセンテージを大庄中と市内平均で比較したものです。回答は、『よくわかる・だいたいわかる・半分くらいわかる・わからないことが多い・ほとんどわからない』の5つから選ぶことになっています。大庄中の国語は、「わからないことが多い」と「ほとんどわからない」と答えた人の比率が市内平均より高いのに、到達度調査で53点くらいの平均点が取れていることを考えますと、基礎的な読み書きや文章を理解する能力は、ある程度備

わっている人が多いと推測できます。逆に、英語では、「わからないことが多い」と「ほとんどわからない」という人の比率が市内平均より低いにもかかわらず、到達度調査の平均点は15点近く下回っています。この2つのことから、生徒自身の授業が「わかる」とか「わからない」という受け止め方と到達度調査の結果(得点)には、あまり関係性がないのではないか、ということが考えられます。

授業がわかりにくいのも事実かもしれませんが、授業ではわかっているのに、習ったことを反復して定着させる勉強が不足していたり、授業で理解したことをテストで回答として書けるようにする練習が不足しているのかもしれませんが、一人ひとりが、自分に必要な勉強は何か、よく考えてみる必要があるように思います。

人数分布から公立高校合格の可能性を予想

表4は、今回の到達度調査で、5教科の合計得点を20点ごとのグループにして、その人数分布とパーセンテージを大庄中と市内全体と比較したものです。平均40～59点のグループの比率は、大庄中も市内もあまり変わりませんが、網掛けで示している通り、大庄中は平均60～79点のグループと平均80点以上のグループの比率が市内よりかなり少なく、平均20～39点のグループと平均20点未満のグループの比率が市内よりかなり多いということがわかります。また、大庄中の2年生の55%の人が、今回のテストで平均40点(5教科合計では200点)以下だ、ということも足し算でわかります。5教科合計で200点が取れない55%の人達は、今年までの入試状況から考えると、このままでは、公立全日制の合格が非常にきびしい状況だと思います。

	大庄中	市内	大庄中	市内
平均80点以上	0	146	0%	5%
平均60～79点	16	821	12%	26%
平均40～59点	44	1179	33%	37%
平均20～39点	56	817	42%	26%
平均20点未満	18	185	13%	6%

もう一つ、別の観点から考えてみます。この調査で、大庄中の2年生は、市内平均の242.1点(1教科平均にすると48.4点)を上回っている人が40人しかいませんでした。これは、学年全体(在籍人数は150人)のおよそ27%です。市内平均あたりが公立全日制合格の目安だと考えると、今の大庄中2年生の来年度の公立高校合格率がどうなるか、とても心配になります。現段階で、市内平均点に届いていない110人の人達の大奮起に期待するしかありません。110人の中で、5教科合計が150点(1教科平均30点)から242.1点までの人が50人います。この50人の人達が市内平均を上回れるようになれば、市内平均を上回る人が学年で90人(学年の60%)ということになりますから、それあたりが来年度の学年全体の最低目標かなと思います。

全体の目標はそのあたりですが、1教科平均で30点が取れない人が、学年で60人もいます(欠席の人も含めてですが)。これも多すぎます。この人達は、がんばってレベルアップしなければ、来年の進路で大変に苦労することになりそうです。

全体の目標はそのあたりですが、1教科平均で30点が取れない人が、学年で60人もいます(欠席の人も含めてですが)。これも多すぎます。この人達は、がんばってレベルアップしなければ、来年の進路で大変に苦労することになりそうです。

テストの点数だけが勉強の目的ではないが…

このような学力調査やテストの得点を上げることがだけが、学校で勉強する目的でないことは言うまでもありません。学校は、学習塾や予備校ではありませんから、そういう意味でも、勉強だけが目的ではありません。とは言っても、入試に必要な点数を取れば上の学校に進めませんし、そうしなければ、将来の職業や夢が叶えられなくなるのも現実です。学校は、勉強のためだけの場所ではありませんが、勉強をしっかりやることは必要だ、という意識で努力してくれることを期待します。(文責:校長 福井 隆夫)